

あなた又はあなたの家族が使用するお薬は
**エダラボン点滴静注 30mg
バッグ「アイロム」**です

エダラボン「アイロム」は、脳梗塞が起こったときに発生する有害物資(フリーラジカル)を取り除き、脳の細胞を守るお薬です。

この薬を使う際に確認すべきこと

- あなた又はあなたの家族が以下に該当する場合は、担当医に申し出てください。
 - ・ 過去にこの薬に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人
 - ・ 腎臓、肝臓、心臓に障害のある人
 - ・ 感染症のある人
- 血液検査、腎機能・肝機能の検査が、この薬を使う前と開始後に頻回(週3回程度)に行われます。

この薬の使い方

患者さんの症状にあわせて、担当医が決めます。

通常、症状がみられてから24時間以内に投与を開始し、1日朝夕2回、点滴静注を行います。投与期間は14日以内です。

この薬の副作用

この薬で特に注意が必要な副作用は次のようなものです。

いずれも必ず起こるというものではありませんが、症状があらわれた場合や、他に異常が認められる場合には、速やかに担当医や看護師などの医療関係者に連絡してください。

副作用	主な症状
急性腎障害・ネフローゼ症候群	からだがだるい、疲れやすい、からだのむくみ、全身の著明なむくみ、頭痛、意識の低下、眼がはれぼったい、息苦しい、尿量が減る、尿がでない
劇症肝炎、肝機能障害、黄疸	からだがだるい、発熱、頭痛、意識がなくなる、意識の低下、考えがまとまらない、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐、食欲不振、羽ばたくような手のふるえ、かゆみ、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、尿が褐色になる、判断力の低下
血小板減少、顆粒球減少	発熱、鼻血、のどの痛み、歯ぐきの出血、あおあざができる、皮下出血、出血が止まりにくい
播種性血管内凝固症候群(DIC)	頭痛、めまい、鼻血、白目が黄色くなる、耳鳴り、歯ぐきの出血、動悸、息切れ、あおあざができる、紫色のあざ、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
急性肺障害	発熱、咳、痰がでる、息苦しい
横紋筋融解症	脱力感、手のしびれ、足のしびれ、手足のこわばり、筋肉の痛み、赤褐色尿
ショック、アナフィラキシー	からだがだるい、冷や汗、ふらつき、めまい、意識がうすれる、意識の低下、考えがまとまらない、ほてり、血の気が引く、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、息苦しい、動悸、息切れ、じんましん、判断力の低下

<参考資料>

- エダラボン点滴静注 30mg バッグ「アイロム」電子添文
- 「重篤副作用疾患別対応マニュアル」（厚生労働省 重篤副作用総合対策事業）

2023年7月

ネオクリティケア製薬株式会社